

強者の戦略

2022年度 東大地理 第2問〔解答解説編〕

いかがでしたか？インフォーマルセクターは二次試験で地理を受験するなら説明できないといけないレベルの単語でしたが、自由貿易地区は難しかったと思います。あまり解けなかった人は気持ちを入れ替えて、地理学習に邁進していきましょう。

【解答】

設問A

- (1) 早期に開発されたア州では住宅・生活費が高騰し流入が停滞しているがハイテク産業の集積が進むイ州では流入が続いているため。(59字)
- (2) ウ州では農村若年層が都市部へ流出し高齢化が進むが、エ州では退職した高齢者が温暖な気候を求めて流入し高齢化が進むため。(58字)
- (3) 失業率が上昇し、税収の減少から公共サービスの質が低下する。(29字)
- (4) 社会主義国キューバからの反共産主義者の流入が見られるため。(29字)

設問B

- (1) アー南部 イー北東部 ウー北部
- (2) 中西部ではブラジル高原のセラード開発により農地造成が進み大豆栽培や混合農業などが盛んになり、ウ地域ではアマゾン川流域のマナオスが自由貿易地区に設定され工業化が進展している。(86字)
- (3) 1人当たりGDPは、イ地域は干ばつが頻発する脆弱な農業地域で低く、南東部は鉄鋼業や都市でのサービス業が発展して高い。(59字)
- (4) 農村地域の低所得層が産業の発達する巨大都市に流入し、ゴミ拾いなどのインフォーマルセクターに従事しスラム化が進んでいる。(59字)

【解説】

設問A

- (1) いきなり難しい問題からスタートです。アのカ

リフォルニア州とイのアリゾナ州の人口増加率などは教科書・資料集で扱われていないと思われるので、思考力が問われている問題になります。皆さんの地理的思考能力の見せ所です。

まず、**人口増加は自然増加と社会増加の総和**だということを考えてください。1970～2010年にかけてアメリカ合衆国の合計特殊出生率は2.48から1.93に減少しています。ここまで細かいデータを知っておく必要性はないですが、1人の女性が産む子どもの数が少なくなっていることはイメージできると思います。ですので、アメリカ合衆国の各州の人口増加に強い影響を与えているのは社会増加であると考えられます。つまり解答の指針として「ア州では社会増加が起きにくく、イ州では社会増加が起きやすい」ということを念頭に置きながら答案を作成します。

次に、ア州の社会増加について考えます。ア州のヒスパニック系人口比率は37.6%で、全州の中でも上位に入る高さを誇ります。この背景には、カリフォルニア州では地中海性気候を活かして野菜や果実の栽培が盛んであり、その収穫は労働集約的な面があるため、アメリカ人より賃金水準の低いメキシコ人(ヒスパニック系)が多く流入して従事していることが挙げられます。ヒスパニック以外ではアジア系が多く(2020年では15.4%を占める)、中国人やインド人などのIT人材などがシリコンバレー(サンノゼ)で働いています。とりあえずア州の整理を終えて、イ州の考察に入ります。

イ州で習ったことがある知識はシリコンデザートとその中心都市フェニックスぐらいしかないと考えます。用語集の説明を引用しますと、シリコンデザートは「エレクトロニクス産業・IT産業・ソフトウェア産業などの先端技術産業が集積している」とあり、フェニックスは「温暖で乾燥した気候から観光保養地として発展し、柑橘類・野菜栽培などの農業も盛ん。1990年代から航空機・電子工業など、ハイテク産業が発達している」とあ

強者の戦略

ります。

ここまで見たように、ア州とイ州はともに農業も先端産業も発達しているため、なかなか書く道筋が浮かびません。ですが、イ州は「1990年代からハイテク産業が発達している」とあるので、「古くから発達していたア州よりも近年発達を遂げてきたイ州へ流入が続いている(36字)」の方向で書くしかなさそうです。ここから残りの24字分の肉付けをしていきましょう。ア州ではなぜ人口流入が下火になってきたのか。早くから発達すると、開発に利用できる土地が少なくなっている、住宅地が不足するようになっていて、その分地価が上昇している、などが起こっていると考えられます。まとめると、「開発が早かったア州では住宅・生活費が高騰し流入が停滞しているが、ハイテク産業の集積が進むイ州では流入が続いているため。(59字)」となります。解答の方針を模索する中で農業のことを考えましたが、結局使わなくなりました。でも、こういう模索は必要だと思います。

あと、解答の中で「生活費」もプラスしています。みなさんが手にする可能性がある資料集『世界の諸地域 NOW2021』のP151に、「優秀な人材がシリコンバレーに集まり、周辺地域に高所得者が多く住むようになった結果、**サンフランシスコやサンノゼなどの都市では家賃や物価が高騰し、中・低所得者層が郊外に追いやられている**という課題も生じている」とあります。やはり教科書よりも資料集の方が時事問題に対応しやすいですね。ぜひコラムまで読むようにしてください。

東大の問題では2010年までの状況で考えられていますが、その後の10年でさらにシリコンバレーやカリフォルニアの状況は変わってきています。シリコンバレーの技術者の賃金水準は高騰し、生活費も上昇した一方、生活費の上昇でホームレスの増加も顕著となっています。ホームレスの方達は夜間に暖を取るために深夜運航のバス

を利用しています。なお、シリコンバレーの生活費も非現実的になりすぎて、多くの技術者を街から追い出してもいます。こうしてアメリカではシリコンバレーの次の拠点が求められつつある現状となっています。地理的思考能力が高ければある程度類推して高得点が取れるかもしれない問題でしたが、普段から新聞や海外ニュースに通じておくとさらに解きやすくなる問題でした。皆さんも最新時事情報に敏感になっていきましょう。

話は変わりますが、地価の上昇が問題となっている都市としてソウルも挙げられます。「適正な価格で住宅を供給するにはどうするのか」が、ちょっと前の大統領選の争点でもありました。**地価が上昇した原因として考えられるのが首都圏への人口集中が続いていることと、それにより住宅に対する需要が供給を上回っていることが挙げられます**(需要と供給の観点から地価や住宅価格の高騰を考えるのは大事なことです)。首都圏に人口が集中する理由は、首都圏の経済規模が大きくなり、雇用が量・質ともに首都圏以外の地域を上回っていることに加え、**名門大学への進学率が高い高校や有名塾等の教育インフラが整備され、子供の大学進学等に有利である**ためです。学歴社会と言われている韓国ではソウルやソウルへ近接している新都市に居住することは、子供の将来のために選択すべき最優先の選択肢として認識されているようです。

(2) こちらの問題は結構典型的な問題だと思います。東大でも類題が出題されています。次のページを参照していただきたいですが、2008年の問題では、退職した日本人が温暖で暮らしやすいブリズベンやゴールドコーストに永住することが増えてきていることがテーマとなっていました。今回は、五大湖などアメリカ合衆国北部の退職した高齢者が温暖なフロリダ(エ州)に移住し75歳以上人口比率が高くなることを書けば良いでしょう。他方、アイオワ州(ウ州)はトウモロコシや大豆の

強者の戦略

全州有数の生産地であるため、農牧業が盛んな地域となっています。ただ、賃金水準は都市部の方が高くなっていますので、高賃金を求める若年層がこれらの農村地域から都市部へ流出し、75歳以上人口比率が高くなってしまっています。ここはちゃんと学習を進めてきた受験生にすれば失点したくない問題でしょう。

[東大 2008年]

以下の表1～3は、海外で生活する日本人と日本で生活する外国人に関するものである。以下の設問A～Cに答えなさい。(表は割愛)

表1で1985年～2005年の永住者数の変化をみると、オーストラリアでの増加率が大きい。オーストラリア国内では、シドニー、メルボルンと並んで、ゴールドコースト、ブリズベンで多くなっている。ゴールドコーストやブリズベンで永住者が増加した理由を2行以内で述べなさい。

- (3) アメリカの中西部(右参照)ではデトロイトを中心に自動車産業が発達していました。しかし60年代になると、デトロイト中心部の工場は郊外や他州に移転し、多くの雇用が失われました。更にエネルギー問題や環境問題への関心が高まるなか、70年にマスキー法(自動車の排ガス規制法)が制定されると、アメリカ定番の大型車は人気を失い、80年代には燃費の良い日本の小型車に圧倒されるようになりました。また、グローバル化の進展で、デトロイト近郊に残っていた工場も、コストの安い中南米や中国に移転することになり、税収減に歯止めがかからず、デトロイトは深刻な財政難に陥りました。2009年には、サブプライムローン問題に端を発した金融危機が苦境にあえぐ自動車業界を直撃し、4月にクライスラー、6月にGM(ゼネラルモーターズ)が経営破綻しました(その後、両社とも米政府の支援等により再生)。上記の内容まで細かく知っていなくても、デトロイトが苦境に立たされたことを知っていれば、十分解答が可

能だと思います。「基幹産業の斜陽化」→「雇用能力の低下」→「失業率上昇」や「基幹産業の斜陽化」→「税収の減少」→「公共サービスの質の低下」などで書けます。「公共サービスの質の低下」→「警察官の人員削減」→「治安の悪化」(→「デトロイトは全米で最も危険な都市」)の流れもあるので、治安の悪化を解答に含めた人も素晴らしいと思います。都市の範囲で習った**インナーシティ問題**が頭にあると書きやすかったと思います。

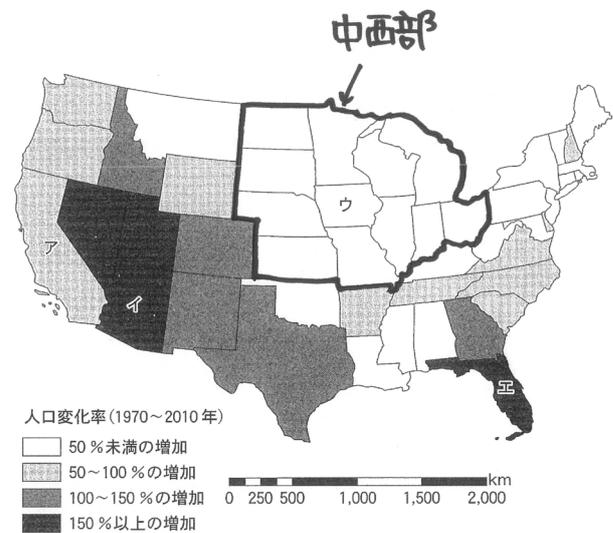


図2-1

- (4) この問題は少し世界史選択者に有利に働いたかもしれません。世界史で有名な**キューバ危機**が絡んでいるからです。「キューバから反共産主義者の移民が増加した」と書ければ十分でしょう。図2-1にキューバが描かれていればもう少し難易度は下がったと思います。

一応、キューバとアメリカ合衆国の関係を整理してみます。キューバで1952年に政権を握っていたバティスタは、アメリカ合衆国に従属する政策を推し進めたため、次第に国内で反政府活動が活発化するようになりました。その最中、フィデル=カストロ率いる革命軍は農民の支持を得て勢力を拡大し、1959年1月1日にキューバ革命でバティスタ政権を武力で打倒することに成功します。しかし、革命後に成立した政権は農地改革の

強者の戦略

過程でアメリカ合衆国企業を接収したため、これに反発したアメリカ合衆国が**キューバの主要産業である砂糖**の輸入を停止して対抗しました。その後キューバが砂糖の買い付けなど経済協力を申し出たソ連に急接近したことを受け、アメリカ合衆国が1961年にキューバとの国交断絶を通告したため、キューバも社会主義革命を宣言しました。上記を背景とし、キューバ革命移行、キューバ人のアメリカ合衆国移民が急増します。彼らの移住先は、キューバに最も近いフロリダ州と、ニューヨークの隣に位置するニュージャージー州に集中しています。

この革命後の初期にアメリカ合衆国に亡命した移民は、マイアミで「黄金の亡命者たち」と呼ばれ、キューバ革命により発足したカストロ政権の共産化に反発する政治亡命者であり、処刑を逃れた軍事関係者、企業家や医師などの専門職に就いていた富裕層や知識層が多く、その豊富な知識や職業スキルを活かし、短期間で生活水準を高め、アメリカ合衆国に経済基盤を築きました。現在でもアメリカ合衆国全土で200万人を数えるキューバ系移民の7割がフロリダに残っており、マイアミ人口の16.6%がキューバ系です。

設問B

(1) こちらもいきなり難しい問題からスタートです。(2)の問いの指定ワードの「自由貿易地区」が実はヒントになっています。**アマゾン川中流域の都市マナオスが自由貿易地区に設定されている**ことを知っていれば、ウ地域が「北部」に該当することが分かります。でも、みんな知っている知識ではないですよね。私は共通テスト向けと二次試験向けの授業を研伸館で毎年担当していますが、頻出ではないなと思い、ここ数年はあまり話していませんでした。直近のセンター試験では2010年に出題されています。

[2010年度 センター試験地理B 本試]

都市と河川との関係について述べた文として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① ヴァラナシ(ベナレス)は、ガンジス川に面した宗教都市であり、巡礼に訪れた人々が川で沐浴している光景がみられる。
- ② ニューオーリンズは、ミシシッピ川河口部に位置する港湾都市であり、メキシコ湾岸で採掘される石炭の積出港として重要である。
- ③ バンコクは、チャオプラヤ川の三角州(デルタ)に位置する首都であり、果物やみやげ物を売る水上マーケットは観光地にもなっている。
- ④ **マナオス(マナウス)は、アマゾン川中流に位置する河港都市であり、自由貿易地域に指定されたことにより、外国企業の立地がすすんでいる。**

ウ地域が「北部」と判定できても、「北東部」と「南部」の判定も難しいです。真剣に南米地誌を学習していないと解けないレベルでしょう。

「北東部」を考えます。一般にノルデステと呼ばれる「北東部」は、16世紀初めにポルトガル人による本格的な植民活動が最初に始まったところで、サトウキビ栽培などが進められました。ノルデステの内陸部はブラジルでも最も深刻なラティフンディオ(大土地所有制)が残存する地域の一つで、土地を持たない貧農の割合が高くなっています。また、**数年ごとに発生する周期的な干ばつが、住民の苛酷な生活に拍車をかけ、多数の干ばつ難民が生存をかけてアマゾンやノルデステ沿岸部、南部諸州の大都市へと大規模な国内移住を繰り広げてきました。**政府は1936年に法令で「干ばつ多角形地帯」を画定し、その内部で重点的に干ばつ対策事業を展開してきました。しかし遅々として進まない農地改革や、「干ばつ産業」と揶揄される不正だらけの公共事業の隆盛に阻まれて効果的な干ばつ・貧困対策を実現できずに

強者の戦略

来ました。その結果、ノルデステは未だにブラジルを代表する後進・貧困地域として位置づけられたままで、その解決に向けた取り組みは国家的最重要課題であり続けています。よって、1人当たりGDPが最も低い地域が「北東部」に該当します。残る地域が「南部」に該当します。

- (2) 「自由貿易地区」は書きにくいかもしれませんが、中西部の経済開発・経済発展は最近の地図帳や資料集には載っているので、そこそ高得点を取りたい問題です。帝国書院の『新詳高等地図』P84の右下の記載を引用しますと、「ブラジルでは近年大豆の生産が急増している。とくにセラードを開拓した中央部と草原を開拓した南部に多い」とあります。ここから、「ブラジル高原のセラードを開発し、大豆などの農地を拡大し…」というような解答の方針が見えてきます。

残りの「自由貿易地区」ですが、よく分からないと思うので、似たような言葉の「経済特区」や「輸出加工区」を想定し答案を作成してください。「経済特区」や「輸出加工区」は、安価な労働力を元に外国企業の誘致を行い、労働集約型産品を生産し、海外へ主に輸出していく地区でしたよね。この考え方で十分です。なので、「アマゾン川流域のマナオスが自由貿易地区に設定され工業化が進展しているため」と書けば良いでしょう。実際は、マナオスの「自由貿易地区」には、製造業を主とする日系企業が多数進出していて、マナオスに立地する企業の本拠地は、海外から部品を輸入して完成品を組立て、ブラジル国内向けに販売する、というビジネスモデルをとっています。

- (3) 「どのような経済格差が読みとれるか」という問いに対する解答は、表の右端に載っている「1人当たりGDPの高低」を軸に据えれば良いでしょう。イ地域(北東部)の貧しさについては(1)で述べているので割愛します。南東部の豊かさについてですが、(4)の文面がややヒントになっているかもしれません。「人口でブラジル第1位の都市サンパ

ウロ、第2位のリオデジャネイロが存在する」という部分です。都市型の金融・サービス業などが発達していると考えられます。ただ、これだけだと内容量が少ないので、鉄鉱石産地を背景とした鉄鋼業などの工業を加えて解答を作成するようにしてください。

- (4) まず、文面を丁寧に読みましょう。「国内の地域的な経済格差を背景に持つ問題を、それとの関係が明らかになるように」の部分です。「経済格差が背景で大都市において問題が発生している」という流れがしっかり見えるように解答を作成してください。(3)を解いたときに、北東部が貧しく、南東部が豊かであるという結論に至りました。とすれば、「北東部の貧困地域から生活を改善するために南東部に移住してくる低所得層が多く、そのため南東部の大都市で過密を背景とする都市問題が発生するようになった」と書く方針が決まります。あとはインフォーマルセクターの使い方ですが、こちらも都市の範囲で習った知識が頭にあると書きやすかったと思います。

インフォーマルセクターとは経済学用語の一つです。経済活動が行われている場合に、その経済活動が行政の指導の下で行われておらず、国家の統計や記録に含まれていないようなものを言います。これは発展途上国における経済活動で多く見られる形式であり、貧民とされる者によって行われています。農村に住んでいた者が職を求めて都市部に移住した場合に、インフォーマルセクターという形式で働き生計を立てている場合が多くなります。インフォーマルセクターとされるような仕事は、店舗を持たずに路上で商売を行ったり、行商を行ったり、再生資源となるようなゴミを集めるなどといった形であり、従事している者はこれらで生活のための収入を稼いでいます。

結論としては、「低所得層が南東部に大挙して流入したとしても、全員がしっかりとした企業で

強者の戦略

働けるわけではなく、インフォーマルセクターに従事する人が増加し、スラム化につながっている」と書けば良いでしょう。

これで東大の 2022 年度第 2 問の解説は終了です。今年度の始めにして、いきなり難易度の高い問題でした。しっかり復習しておいてください。次回も東大の問題を解説するつもりでいます。それまでにしっかり頑張って実力を上げておいてくださいね！